



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第9号

令和3年9月6日発行

文責 校長 宮地 浩幸

新学期が始まりました。

今年の夏休みは、いろいろなできごとがありました。コロナ禍における東京オリンピックの開催。史上最多の金メダル獲得に象徴されるように、多くの感動をアスリートの皆様から頂くことができました。オリンピックを見ていつも感じるのですが、アスリートの皆様は国を背負って競技していらっしゃいますので、そのプレッシャーは並々ならぬものと思います。平和の祭典と象徴されますが、選手たちは常に1番になることを目指し日々努力しているはずです。しかも、4年に1度の大会で、その機会も極端に少ない特別なものです。だから、技術的な面は、もちろんですがその精神力は驚異のものだと感じます。まさに金メダルは心技体のなせるものです。これは、教育の場面のいいお手本になります。学校現場では、知、徳、体のバランスの良い生徒の育成を目指します。単に勉強ができるだけでは、不十分で、心と体の育成を伴ったものでなければ、真の人格の形成につながりません。本校の永遠の目標「つ…つよいからだ ば…ばりばりべんきょう き…きちんとあいさつ」にもそのことが反映されていることは前にも伝えていきます。今日から新学期が始まりますが、基本、1学期同様子ども達には、勉強、スポーツ、挨拶など何でも一生懸命に頑張るよう励まします。



また、大雨による甚大な被害も発生しました。2年前に8月の終わりころ佐賀豪雨が起こりましたが今回の雨量はそれを超えていました。幸いに加唐島や松島で大きな被害があったことを耳にしませんでした。このような体験をすれば自然の前には、無力であることを感じざるを得ません。自然は私たちに恵みを与える反面、厳しさも教えてくれます。自然豊かな環境で学んでいる私たちは、時として自然の厳しさを間近に感じます。何気なく島で生活することで、自然に対する認識が身についていることは1つの強みかもしれません。どのように自然と共存するか子ども達は日々の生活の中で培っていると期待します。

新聞の影響は大きい

本年度「学校だより第1号」で、北方領土に関するスピーチコンテストで中学2年生が全国2位になり、河野大臣との対談を行ったことを記載しました。表彰を受けたのは、昨年度だったのですが（昨年度の学校だよりも紹介しています）、その快挙の称賛は時間が経つにつれて大きくなります。このことにより、唐津市の教育長表彰を受けました。そして、7月30日（金）に関係団体からの推挙もあり、知事の表敬訪問が実現しました。このことを佐賀新聞が8月12日（木）付けに取り上げ、多くの方々の目に触れるようになったのです。その反応は学校にも届き、改めて今回の生徒の頑張りを再認識できたことは学校として大変喜ばしい事です。

ところで、今回のスピーチの内容は、島をふるさととする人たちの思いに沿った内容を自己の体験と

照らし合わせたものでした。そのことは、加唐島に生活してきて、芽生えた思いであり、郷土への誇りを十分に伝えてくれたものだと思います。これまでの加唐小中学校に勤務された先生方の思いや地域の方々の児童生徒に関わってこられた思いも今回の受賞に反映されているのではないかと考えます。今回の偉業は加唐小中学校のこれまでの教育の成果を示し、教育目標が実現された1つの証だと誇らしく思えるものでした。そしてそれが新聞に取り上げられることにより、加唐小中学校の存在の大きさを広く知らしめることができたと考えます。

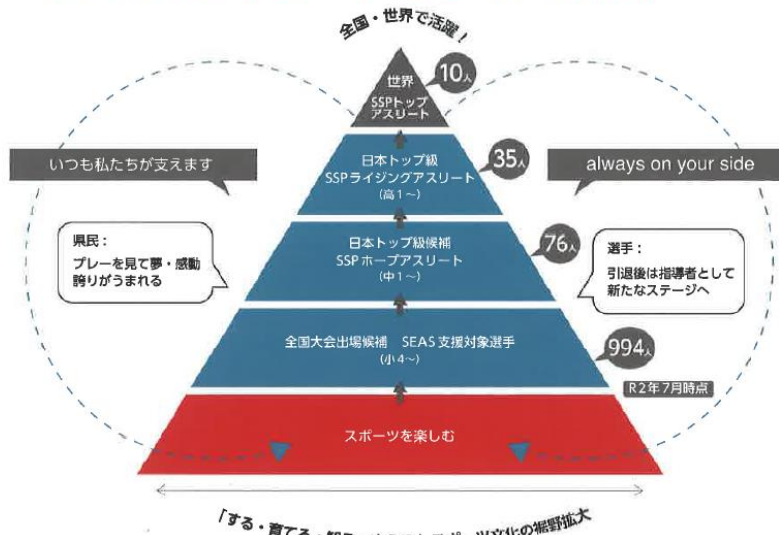


令和3年度佐賀国スポ強化指定選手

本校小学5年生が2024年に開かれる佐賀国スポの強化指定選手に選出されました。競技種目はテニスで現在、県の学年ランキングでは第2位です。現在佐賀県では、佐賀ゆかりのトップアスリートの育成を行っています。それがSSP構想です。右の図に階層を示していますが、今回は下から2番目のSEASに属することになります。県内のアスリート994人の中に入ったわけですのですごい快挙です。本校では部員数2名で、小規模ですが熱心に活動しています。今回の選出でまた一層練習に拍車がかかると思います。将来は、佐賀を代表する選手になって欲しいと切に願っています。

ところで、子ども達は昨年度から、佐賀県代表として、活躍する場面がいろいろ出てきて、学校としてうれしいばかりです。本校の学校目標には「郷土を誇りに思い…」としていますが、その郷土が加唐島、松島から佐賀県へと移っていつているような気がします。それだけ子ども達のスケールが大きくなっていることを示しており、大変誇らしく感じます。

SSP/SAGAスポーツピラミッド構想



コロナ感染これまで以上に気を付けて

新型コロナウイルスデルタ株の猛威が止まりません。これまで、小学生や中学生の感染は比較的に少なく、学校内での感染はほとんど起きていませんでしたが、デルタ株は若い人たちの間でもどんどん広がり、重症化する危険性も増えています。それを反映したのか、東京渋谷で若者たちがワクチン接種に長蛇の列を作っている様子が報道されていました。ワクチンの接種率もかなり上がってきていますが、一向に終息の気配が見えないのはかなり心配です。唐津市内の小中学校では、夏休みの一斉登校もなくなり、9月3日までは臨時休業となりました。この状況に鑑み私たちは、これまで以上に感染拡大に気を付けなければなりません。そのためには、うがい、手洗い、マスク着用、換気、検温、密の回避などをこれまで以上に丁寧に行い、十分な栄養や睡眠、規則正しい生活習慣を心掛け、健康管理に留意してください。少しでも調子が悪い場合は登校を控え、必ず学校に連絡してください。